

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572612877		
法人名	株式会社 大曲仙北介護支援事業所		
事業所名	グループホームふれあい		
所在地	秋田県仙北市田沢湖神代字街道南 237		
自己評価作成日	令和5年10月12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	令和5年10月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

遠くに山々を見渡す自然豊かな田園に囲まれた場所に、2ユニットの当施設があります。利用者様にとっては馴染みの環境であり、ゆっくりとした時間の中で過ごしていただくことができます。また、施設の花壇には、四季折々の花が咲いており、散歩中に季節を感じて頂いています。ご家族様や地域の皆様との交流の場として、施設での様々な行事への参加を通して、交流を深め、ご理解を頂けるように努めていますが、近年はコロナウイルス感染防止の観点から、面会を控えて頂いており、ご家族様には寂しい思いをさせていますが、オンライン面会や電話・お手紙にて対応させて頂いております。ご利用者様が安心して過ごしていただけるよう、健康管理を一番に考え、医療との連携を図り、状態の安定を目指して、「自分らしく 心豊かに暮らす」をモットーに支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

遠くの山々や窓から見える田んぼの稲の生長、新幹線が通過する様子を眺め、季節の移ろいを感じながら利用者は生活しています。地域の方々のホームへの理解が得られて協力体制も構築されており、文教施設が近いことから、利用者がこの地域で暮らし続ける上で恵まれた環境にあります。職員は利用者を年長者として敬い、時に感謝の言葉を伝えながら穏やかに暮らしていくことができるよう支援しています。コロナの影響が未だに残り、制限されることが多いものの、利用者の生活が単調にならないようできることを工夫しながら日々の業務に取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~46で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
47	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:19,20)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	54	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9,15)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
48	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	55	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,16)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
49	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:19)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	56	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
50	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	57	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
51	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:41)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	58	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
52	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	59	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
53	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様が地域の中で安心して暮らしていただけるように、「自分らしく心豊かに暮らす」を理念に掲げ、玄関や、施設内に提示し常に意識し支援できるようにしている。	利用者主体のサービスが実践されており、理念が日々のさまざまなケアに反映できるよう取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近年はコロナ感染防止の為、開催する事が出来なかったが、今後は感染状況を見ながら敬老会や夏祭り等の行事を企画し、地域の方々や利用者様、家族様等との交流を図りたい。地域にて行われる行事への参加、部落の総会にも参加させていただき近隣住民の皆様との交流と信頼関係の構築に努めたい。	利用者との交流は控えているものの、果物等の差し入れや除雪、除草に協力していただき、地域の方との繋がりは継続されています。小中学校、こども園が近いことから、ホームの情報を発信しながら、更なる地域交流の推進を期待します。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	施設の行事等に参加頂きながら、地域の方との交流を深め、その中で、施設の紹介をしたり、認知症に関する相談を受けたり、情報交換したりしながら、認知症に関する理解を深めていただく努力を続けていた		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者状況、行事・運営状況等報告を行いながら、入居者様、ご家族、地域住民・行政等の皆様からのご意見やご要望をいただき、サービスの向上に努めている。今年度は、コロナウイルス感染防止の為、書面にて行っている。	書面上の開催が続いていますが、メンバーから意見をいただき、議事録として行政に提出しています。詳細な報告をすることで更にメンバーの意見が期待できることから、サービスの向上に活かすためにも、報告の仕方の工夫を期待します。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター、福祉事務所、行政機関等、入居者様のかかわりと共に、施設の内容等、電話や訪問等により、常に密に連絡できる体制をとって頂き、協力を頂いている。	ケア会議、多職種会議に参加して情報交換している他、担当部署、包括とは密に連携が図られています。	
6	(5)	○身体拘束及び虐待をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組むとともに、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加、また、勉強会等にて正しく理解するよう努めている。施設においては、夜間以外は施錠せず解放し、見守りを行っている。運営推進会議の中で、多方面の方々の意見を伺い、身体拘束適正化について、取り組んでいく。	職員が自己チェックを行って日常を振り返り、身体拘束、虐待のないケアに取り組んでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等への参加の機会を設け、制度等について理解を深めるよう努めている。現在自立支援事業を利用されている方が1名おり支援させてもらっている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時施設の概要、サービス内容・対応等を書面や口頭で充分説明し、理解と同意を頂くように努めている。		
9	(6)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、要望、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、適切に対応するとともに、それらを運営に反映させている	面会時・電話等、お便りや写真等にて近況を報告している。その際、ご意見・ご要望等もお聞きしている。	家族が訪れた際には話しやすい場づくりを心がけ、意見の引き出しに努めています。コロナ禍でできなかった面会、外出の希望にも少しづつ制限を緩和し、要望に応えています。	
10	(7)	○運営や処遇改善に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や職場環境、職員育成等の処遇改善に関して、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを適切に反映させている	毎月の職員会議時に、運営や日々のケアに関する事等、それぞれの意見を言い合える場を設けている。また、管理者は月初の管理者会議に出席し、その意見や提案が出来る体制にある。さらに、職員の意見の反映の為、代表者と個別面談を行っている。	職員の意見は管理者を通じて法人に伝えられています。ユニット間の連携が図られ、利用者の生活に反映できるよう取り組んでいます。	
11		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	主にグループホーム連絡会を通じて会主催の研修会等に参加し交流する機会を持つようになっている。仙北市の多職種研修会等、特に市内の研修会や会合に参加し、情報交換をしていたが、今年はコロナウイルス感染防止の為、オンラインでの研修に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時に本人・家族、関係機関より、情報収集を図り対応できるよう努めている。		
13		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接時に家族の意向を聞きながら状況、情報収集を図り対応できるよう努めている。		
14		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活歴や現在の状態等会話の中で、色々教えて頂きながら、日常の生活の中に、馴染みの言葉や風景をはさみながら、家庭的な雰囲気の中で関係の構築に努めている。		
15		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状況報告や要望、希望を伺い一緒に考えたり、一緒に悩んだりしながら、信頼関係を築き、家族・施設が本人を支えられる様に努めている。		
16	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように、支援に努めている	馴染みの場所や友人との交流を家族の協力も得ながら、関係が途切れないよう支援に努めている。	コロナ発生前のように帰宅、自宅近所の方との交流が今はできない状況ですが、毎月の写真付きのお便りで様子を伝え、家族との関係づくりの継続に役立てています。	
17		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性や互いの関係の把握に努め、座席等の工夫をしたり、トラブルの防止のため、リーダー的な存在の方の様子を見守り状況に応じて声掛けをしている。		
18		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要な方との関わりの継続に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、心身状態、有する力等の把握に努め、これが困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族の意見・希望を聞きながら、意向の把握に努め、その都度、相談を重ねている。	入浴時は利用者の思いを汲み取る良い機会と捉え、二人きりの時間を大切にしています。利用者と日常関わることで気づきがあり、利用者の得意なことが力となってホームでの生活に発揮できるよう取り組んでいます。	
20		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自宅で使い慣れた家具や写真等の配置で、居室を馴染みある環境にしたり、日常の会話の中から、これまでの生活の把握、また、情報の把握に努めている。		
21	(10)	○チームでつくる個別介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した個別介護計画を作成している	認知症の進行が著しい方について家族へ状況説明し、希望・今後の支援について要望等を聞いている。定期的に、職員出席でケアカンファレンス・モニタリングを行い、その意見をもとに介護計画を作成している。	モニタリングし、職員間の話し合いを経て現状に即した介護計画を作成しています。	
22		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や個別介護計画の見直しに活かしている	入居者の状況を昼、夜と色別して記録をしている。身体状況チェック表や、申し送り記録をファイルし状況の把握に努めている。職員は連絡帳を活用し職員全員が状況を把握できる体制をとっている。		
23		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者が気分転換できる時間を含め、地域との交流の企画を話し合い、検討している。		
24	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用契約時にかかりつけ医について説明をし了解を得、受診時の体制を整えている。個々の状態や家族の希望に沿う医療機関を受診している方もいる。入居者の状態報告を行い、指示やアドバイスを頂いている。	利用者それぞれのかかりつけ医で継続して受診しており、希望に添い、適切に支援しています。	
25		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の体調チェック、会話等を共有している。受診時にも相談をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関、家族との話をする機会を調整しながら状態の把握に努めている。		
27	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医の意見や職員間の話し合い等踏まえ、家族へ状態報告時に状態の変化に応じてホームの対応や支援を説明している。今後も同様に取り組んでいきたい。	指針を策定し、希望に添った支援ができるよう体制を整えています。	
28		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習を通して初期の対応に備えている。		
29	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い災害への意識を高めている。今年度はコロナウイルス感染防止の為、施設内で行っているが今後感染状況をみながら地域の皆様や家族様からも参加していただけるよう協力体制を築きたい。	避難の際に使用する目印を居室入り口につけ、浴槽には常に水をいれて有事に備えています。また、敷地内は全て舗装されて車椅子の通行に支障はなく、玄関、非常口に風除対策もされています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の様子を伺いながら、本人の思いの伝達や表現ができるよう言葉使いに注意し声掛けや説明、周囲の雰囲気作りに配慮している。	不適切な言葉遣いにならないよう心がけています。排泄の失敗には周囲に配慮した対応をしています。	
31		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみが乱れている際には、その都度さりげなく声がけや介助している。今年度はコロナウイルスの感染状況を見ながら理容店の出張を利用し、カット、顔そり、毛染め等利用者様の希望に合わせて行っている。		
32	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	常に台所に入出入り出来る様に開放している。本人の希望がある時は、一緒に調理や、野菜の下処理、盛り付け、片付け等を行っている。	食事に関する一連の過程が利用者の能力を引き出すことができる機会であり、さまざまな場面で利用者の力が活かされています。食事は職員と一緒に摂っています。	
33		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員全員で、常に把握できる様チェック表を用いている。また、声がけを行い摂取してもらえる様に努めている。		
34		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声がけや誘導、確認を行っている。義歯洗浄の介助が必要な方には介助し清潔保持に努めている。		
35	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄の習慣を把握し、さりげない声がけや誘導に気を配っている。失禁後の交換時は、ご本人の気持ちとプライバシーに十分配慮して介助行っている。	チェック表を活用した支援が行われており、排泄用品の使用減に繋がった事例もあります。	
36		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量や水分摂取の確認し、飲食物の工夫を状況に応じて行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一人ひとりの希望に沿うよう配慮し自分だけの楽しい時間、リラックス出来る時間となるよう努めている。体調により控えた方がよい時は声がけの工夫をし対応に努めている。浴室は麻痺のある方が、どちらからでも出入り出来るよう移動できる浴槽にしている。	週2日午前、午後の時間帯に入浴しています。両ユニットで設備が異っており、利用者の身体状況、機能に合わせて相互に便宜を図り、湯船に入ってゆっくり入浴を楽しむことができるよう支援しています。	
38		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活の中で適度な休息の促しや、夜間の安眠に繋がる適度な疲労感を感じられるように努めている。睡眠状態に変化が見られてきた場合は、かかりつけ医等へ報告している。		
39		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬に関する説明を受けたりした記録を各個人のファイルにとじ確認している。受診記録に医師や看護師からの注意点を確実に記入するようにしている。		
40		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者一人ひとりの得意な事や好きな事を活かし、台所仕事、洗濯物干し、洗濯物たたみ等をしている。又、自室の掃除を一緒に行ったりしながら、生活の張りを感ぜられる様支援している。		
41	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近年はコロナウイルス感染防止の為、観光地への外出は控えていたが、天気の良い日は施設敷地内を散歩している。今後コロナ感染状況をみながら最寄りの観光地へ出掛ける機会を作りたい。また、家族様と相談しながら外出や買い物等一緒に出掛ける機会を設けたい。	車窓から花見をする機会をつくり、天気が穏やかな日は敷地内でお茶をいただいたり、散歩したりしながら外気浴を楽しんでいます。家族の希望もあることから存分に外出気分を味わうことができるようコロナの終息を待ちたいところです。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、家族との話し合いの下、立て替え方式で買い物等で自由にお金を使うことができるようにしている。		
43	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関等に季節の花を飾ったり、台所は解放され調理の匂いや音のする空気感がある。空調設備の調整等で年中快適な温度で過ごす事が出来る。ホールも、季節感が味わえるよう季節ごとの飾りつけを行い、窓から花の成長がみられるよう花のプランターを置いて楽しんでもらっている。今年、玄関等に消毒液やマスクを置き、又、定期的な換気や施設内のアルコール消毒を行い、感染防止に努めている。	広い玄関通路が2ユニットを結び、自由に往来できる造りになっています。利用者の手による見事なパッチワークの作品が数多く飾られ、牛乳パックで作った足置き台にはカバーがつけられて無機質な感じがなく、職員の思いやりが感じられます。	
44		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自室や、ホールのソファーに座ったりしながら、思い思いに過ごす事が出来るようにしている。		
45	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人・家族の希望を取り入れ、馴染みの生活用品や、寝具、その他好みの物品を使用されている。	家族写真や散歩で摘んできた花を飾ったり、自分の意思で物の配置を決め、また、利用者に合わせてベッドの高さを調整する等、一人ひとりが居心地良く過ごせる工夫をしています。	
46		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設全体が空調設備で管理がされ、常に快適な温度湿度を保っている。施設内は、バリアフリーで、手すりの設置、緊急の呼び出しボタンをトイレ・浴室に設置し、安全を保っている。また、事務室、調理室、会議室、浴室、洗濯室、物置等は、施設することが出来、危険物(刃物、薬品、重要書類等)に利用者が誤って触れない様配慮されている。		